

岐阜県恵那市大井町における生活領域と認知点に関する考察

—土々ヶ根・岡瀬沢地区に着目して—

○日本大学 正会員 井出純一

日本大学 正会員 横内憲久

日本大学 正会員 岡田智秀

1. 背景および目的 岐阜県恵那市の北部に位置する大井町では、恵那市景観計画(2012年3月策定)の方針にある地域別景観計画の策定に向け、現在筆者らの参画のもと、景観まちづくり活動を進めている¹⁾。特にこの大井町を構成する土々ヶ根地区と岡瀬沢地区では、白地地域に住宅整備が進展するなか、リニア中央新幹線整備とそれに伴う建設道路整備が進みつつあり、地域の魅力的景観資源が喪失の危機に晒されている。しかし、その景観保全策や良好な景観形成を図るにあたり、住民共通の景観価値や議論の中心とすべき地域の拠点(生活領域)などが不明瞭といった現状問題も有している。

そこで本稿では、土々ヶ根・岡瀬沢地区を対象(図-1)とし、その地域住民の視点から当地区における生活領域の特徴を捉えることを目的とする。

2. 研究方法 本研究では、地域住民の視点を重視し、特に地域住民の身近な生活領域(以下、「生活領域」と魅力的景観資源との関係を捉えたいため、筆者らが参画する本市主催の「土々ヶ根・岡瀬沢地区景観まちづくりワークショップ(以下、WS)」および「岡瀬沢リニア委員会」に参加する地域のまちづくりに関心の高い住民代表らを対象に表-1に示す意識調査を実施する。その結果より、地域住民の当地区における「生活領域」と、その領域認知の要因となる「認知点」を考察する。

3. 結果および考察 表-1の調査により、回答者全24名が指摘した「生活領域」の重ね合わせ図および、「生活領域」を認知する場所(認知点)を示した分布図を図-2に示す。

(1) 「生活領域」の特徴 図-2において4割以上の指摘で重なる領域をみると、北側は「濁川」沿いの「市道長島奥戸線」の周辺部、西側は「県道恵那峡公園線(桜街道)」沿線部、東側は「市道岡瀬沢雀子ヶ根線」沿線部、南側は「中山道」沿線部であることがわかる。こ

れより、回答者は大井町の高台部を取り巻く環状をなす4路線の内側を「生活領域」とする一方、大井町を象徴する大井宿や恵那峡までは含めず、それらとは独立して「生活領域」を意識している実態が捉えられた。

続いて6割以上で重なる「生活領域」の分布をみると、リニア中央新幹線トンネル坑口部付近と栗畑や水田が広がるエリアに集中していることを捉えた。その要因は、土々ヶ根地区の高台部を「生活領域」とする住民と岡瀬沢地区の低地部を「生活領域」とする住民の両者の範囲が重なるためである。これより、当該領域周辺部は両地区の共有空間であるといえ、拠点性を高めるべき場所のひとつと考えられる。



図-1 研究対象地(恵那市大井町)

表-1 調査・分析方法

調査方法	調査内容および分析方法
WS参加者へのヒアリング調査 (12名) 2013年8月31日(土)	①生活領域の範囲 被験者に1/5000の白図を配布し、各々の「生活領域」について範囲付けをしてもらい、その理由を別紙に記述してもらう。 領域ごとの規模を算定するにあたっては、50mメッシュを用いて各回答者の領域のメッシュ数を算出。
「岡瀬沢リニア委員会」住民代表らへのヒアリング調査 (12名) 2013年11月23日(土)	②生活領域の認知点 自らの生活領域の認知点となる場所と名称を①の地図上に記入してもらう。

キーワード 岐阜県恵那市大井町、景観計画、生活領域、リニア中央新幹線

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 日本大学理工学部まちづくり工学科

ウォーターフロントデザイン研究室 TEL 047-469-5427

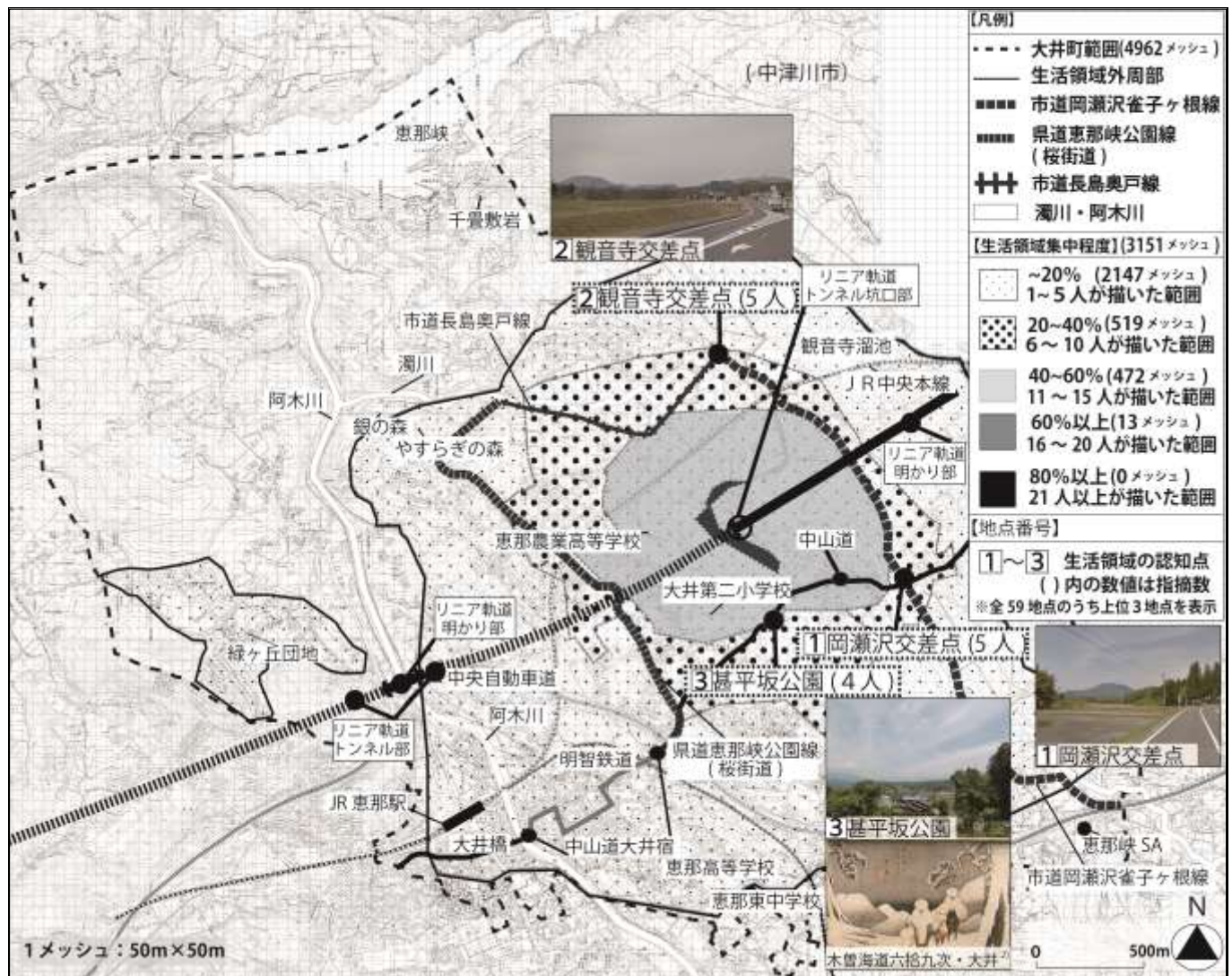


図-2 回答者の「生活領域」の重ね合わせ結果および「生活領域」の認知点(上位3地点)

(2)「生活領域」の認知点の特徴—「生活領域」の「認知点」は全59地点挙げたが、このうち上位3地点は、図-2に示す「①岡瀬沢交差点」(指摘数5人)、「②観音寺交差点」(5人)、「③甚平坂公園」(4人)であった。これらの特徴は、4割以上の「生活領域」の外周部の東部・北部・南部に分布する。領域東部の「①岡瀬沢交差点」は近世より主要な街道として繁栄した中山道入口に面する交差点であるとともに、低平地が広がるために遠景の山並みを望む地点として優れていることから認知されやすいと考えられる。北部の「②観音寺交差点」は、眺望が良好な微高地の頂部となっていることが印象づけていると考える。南部の「③甚平坂公園」は当地区の最高地点に近接し岡瀬沢地区を見渡すことのできる眺望点であるほか、歌川広重が描写した「木曾海道六拾九次・大井」と同じ構図が視認できる場所として親しまれ、知名度も高いこと²⁾が要因と考えられる。これらより3地点は、共通して山並みへの印

象深い眺望が得られることを要因として、「生活領域」の重要な認知点となっていることが把握できた。

4. まとめ—以上より、大井町のJR恵那駅や中山道大井宿を有する中心市街とは異なり、土々ヶ根・岡瀬沢地区は拠点に乏しいとされていたが、本調査から、良好な眺望で共通する「①岡瀬沢交差点」、「②観音寺交差点」および「③甚平坂公園」の3地点が「生活領域」を形成する上で重要な認知点になるとともに、環状をなす4路線で囲まれる高台空間を「生活領域」として、リニア中央新幹線トンネル坑口周辺が「生活領域」の中心部となることが明らかとなった。これより、環状をなす4路線を当地区のコミュニティ道路と位置づけつつ、眺望の良い当該トンネル坑口上部は、両地区にとっての重要なコミュニティスペースとして利活用する手立てが求められよう。

参考文献

- 1) 恵那市：恵那市景観計画，2012.3.
- 2) 恵那市教育委員会：恵那街道歩記，2007.3.